

3月16日(日)



広島初上陸!?

釜茹でめんたい



1パック(200g)

980円 (税込)



西田鮮魚店

72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

もうすぐ春ですね!さて今回は、春の行業に
ぴったり!めんたいを販売致します。
いつも仕入させて頂いている仲卸業者さんが
「ニコニコこちらを見てゐるので、こういう時は必
ず面白い商品が見つかった時です。
「すげちゃん!待つとつたよ!!広島では販売し
てるとこないよ!!」とグツと刺さる言葉。こういう
言葉は迷いなく仕入てしまう私。値段も気にせ
ず...悪い癖が...
パツと目に飛び込む釜茹でめんたいという文字。
どういう事??焼きでも無く、生でもなく、釜茹
で?釜茹でと言えは?うどん!となる私ですが、
めんたいこそ釜茹でしてゐるんです。
鮮鼓堂さんオリジナル製法でふんわり、しつと
り食感に!とあるので、まずは試食から!一口
食べると確かに柔らかくなんとも言えぬ食感!
これがふんわり、しつとりなのか?となるがそれよ
りも美味しい!つてなりました(笑)。後からくる
辛さがたまらない!!白ご飯はもちろん!お弁当
のおかずにも!お供にどうぞ!お花見にびつ
たりかも!いやびつたり!このふんわりしつと
り食感ある釜茹でめんたいを食べて見て下さい。
スタッフ一同お待ちしております。

『若者 ばか者 よそ者』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



I カーリング

『新プロジェクトX』挑戦者たち』に興味深かった。

『カーリング極寒の町に熱狂を』じつちゃんが夢をくれた』
おもしろい番組がなくてカチャカチャ、チャンネルを変えてい
ると、本橋麻里のアップが映った。久しぶりに見た。

なんでか知らないが、カーリングは美人が多い。だからだろう、
どうなれば点が入って、勝ち負けが決まるのか、いまだに知らない
のに、つつい見えてしまう。

最近カーリングといえば藤沢五月が看板だが、日本にカーリ
ングを広めるきっかけになったのは本橋だと思う。

彼女たちが所属するカーリングのチーム『ロコ・ソラーレ』は
北海道の北見市が地元というのは有名だが、北見という地名が、
ここまで知られたのは『ロコ・ソラーレ』の活躍のおかげだろう。
それまでは、どれだけの人が知っていたか。それが今や、カーリ
ング『ロコ・ソラーレ』北見と全国区だ。

何人かの若い女性たちが人口12万人の町を変えた。すごい。

II 北見 トリトン

もっとも私が北見を知ったのは、ずっと前だ。

北海道に『トリトン』という回転寿司がある。

札幌を中心に新店して、今や東京にも進出、あの『東京スカイ
ツリー』にも店を構えている。超のつく繁盛店だ。私の知る限り、
日本で一番の回転寿司店だ。どの店も並ばずには食べれないが、
札幌では、北海道の海の幸を求めて観光客が列をなしている。

回転寿司の経営者は必ず足を運ぶ。私もその一人。『すし鮮』
『すし辰』を出店するときは、社員と一緒に教えを乞うた。おと
としも、三次店の伊達店長が10日間ばかり勉強に行かせてもら
った。

その『トリトン』の一号店が北見。社長の前田さんが北見の出
身。その縁で北見を知った。

北見市はオホーツク海に面した人口12万人の町。北の果てと
言ったら叱られそうだが、そんな感じ。

北海道は広い。新千歳空港から女満別空港まで50分、そこから北
見まで車で30分。着いたら、やっぱり北の果てに来たという気がす
る。なにせ、流水が観光の目玉の町だ

一度、その『トリトン』の前田社長に誘われて、飲食店の経営
者たちと流水を見に北見の町を訪れたことがある。圧巻の流水だ
った。北見の町は寒い。しばれる。1月だったか2月だったか、
道路こそ除雪されていたが、路肩にうず高く積まれた雪の道に人
影は少なかった。

そんな町で『トリトン』は生まれ、日本一の回転寿司になった。
『西田鮮魚店』だって『すし辰』だってやれる。過疎の町を言い
訳にはいけない。

III 女満別空港 本橋麻里

流水に感動した翌日、女満別空港で新千歳空港への便を待つて
いると、どこかで見たことがある顔が……。「おー、本橋じゃ」
そうか、北見はカーリングの聖地じゃった。そこで気づいた。

ん？こちに歩いてくる。「えっ？なにっ？」多少うるたえなが
ら見ていると、前田社長の前で立ち止まって、にこやかに話し始
めた。前田社長は、私たちを紹介するでもなく、二人で歩きだし、
そこにいたご主人と思しき男性と、お子さんと一緒に写真におさ
まり、私たちのもとに戻ってきた。「前ちゃん、紹介してくれよ」
と言ったものの、もう遅い。流水と本橋麻里が思い出になった。

芸能人でも野球の選手でも、一度会ったり見たりしたら身近に感
じるようになる。気になる存在になる。それで、あの時、テレビの
チャンネルを回す手が止まった。

IV 新プロジェクトX 挑戦者たち

『新プロジェクトX』は、途中から見始めたので、よくわからな
かったが、サブタイトルの『じつちゃんが夢をくれた』のじつちゃ

んの小栗雄二さんが、ホースで水を撒いている。極寒の北見だ。ど
うやら氷のリンクを作ろうとしているらしい。繰り返し、そのシー
ンが映る。

タイトルには『じつちゃん』とあるが、始めたころは『おっちゃ
ん』だろう。この酒屋のおっちゃんの小栗さんが『日本カーリング
の父』と呼ばれている人だ。

『世の中を変えるのは、『若者、ばか者、よそ者』だと言われるが、
小栗さんの場合は『ばか者』にちがいない。

人口減少が進む北見市の常呂町で小栗さんは酒屋を営んでいた。
40年も前の北海道の田舎町だ。町の雰囲気は庄原とどこいど
っこいだったんじゃないかなろうか。そんなところで たぶん、当時、
誰も見たことも聞いたこともなかったはずのカーリングなんてもの
を始めるなんて、もの好きもここに極まれりだ、と私なら思う。

リンクもストーンも手作りといえは聞こえはいいが、ホースで水
を撒き凍らせ、ストーンはビール樽に砂と水を詰め、取っ手をつけ
たものやボンベの一部を加工したものだったそう。

いま庄原で、こんなおっちゃんがいたら、変人扱いされるか、無
視され冷笑されるか、そんなところだろう。

ただ、番組では、こどものころの本橋麻里が、小栗さんに肩を抱
かれて笑顔でゲームしている様子が映し出されていた。

小栗さんはただただ、カーリングが好きだったんだらう。こども
たちに教え、その輪が広がるのがうれしかったんだらうと思う。

もちろん、うまくなるごとに、勝ちたいとか、カーリングを普及
したいとか考えるようにはなっただと思うけど。さすがに、オリンピ
ックでメダルを目指すなんて、ずいぶん後のことだと思う。始まり
は何でもそんなもんだらう。

いま北見の人たちは、常呂町の人たちは、町を誇りに思い、子供
たちは夢を追いかけることを知り、前を向いて暮らしていると伝え
ていた。庄原だって、そうありたい。

番組の最後、『ロコ・ソラーレ』の吉田知那美が、「そだねー」
のあの笑顔で話していた。

こどものころ、常呂の町には何もないと思っていた。夢なんても
てるものかと思っていた。町を出ていきたくて思っていた。でも今
はちがう。常呂を誇りに思うと。

IV じゃあ庄原は

さて、庄原だ。

この町を元気にするのは簡単じゃない
でも、庄原にも、小栗さんのようなばか者がいたに違いない。

ただ、うまくいかなかっただけ。たぶん、そうだ。

しかし、捨てたもんじゃあないかもしれないと思い始めた。
今、びっくりしていることがある。選挙が熱い。

市長選。57才対54才の一騎討ち。期待がもてる。

市議選。19議席を22人で争う。うち新人が9人。

若者 ばか者 よそ者

ばか者はそうそういない。よそ者に頼るわけにはいかない。
若者は、若者はたくさんいる。時代を動かすのは若者だ。

この選挙、おもしろい。しっかり見極めたい。
この春、何かが変わる。その予兆かもしれない。

